



いつも Medi-Way 医療通訳だよりをお読みいただき、ありがとうございます。

4月、春のスタートに合わせて新企画をご用意しました。通訳者たちが自身の体験や見聞、または興味があって調べたこと等を「通訳者よもやま話」としてお届けします。日本と外国の“ちょっと違う”あれこれをお楽しみください。



日本とちょっと違うよ - 通訳者よもやま話 - Vol.1 中国語担当 尾添さん

中国に関して「ヒエーッ、カルチャーショック!」とご紹介したいことは、実は山ほどあります。それがあからやめられない、と言っても過言ではないかも(笑)。その中から私が体験した「医療現場のヒエーッ!」をいくつかご紹介します。私の体験、となるとかなり以前のお話もありますが、どうぞお許しくださいね。

〈病院にかかるの大変です!〉 受診の際にはまず「挂号(ゴアハオ)」という診察受付をしないとけません。お金を払って受付票をもらうのですが、この窓口が常に長蛇の列!名前を書いて、というものではないので、朝早くからこの窓口に陣取って受付票を手に入れる「ダフ屋さん」も!診察まで数時間はざらでした。

〈入院なんかしたらもっと大変です!〉 息子が急性盲腸炎で緊急オペになり入院した時のことです。オペの後、食事等について何の説明もありません。ようやく捕まえた看護師さんに聞くと「病院内の食堂に注文して。」と言われました。日本なら開腹手術後は重湯から三分粥...と病院側で全て準備してくれますが、配膳自体がなかったのです!幸い私自身に経験があったので、少しずつ様子を見ながら食べさせましたが、内心ヒヤヒヤでした。

一事が万事、中国ではいろいろな局面で「自分で打開していく」ことが求められます。日本の病院は清潔で、「红包(ホンパオ:付け届け)」もない、安心して診てもらえる...わざわざ来日してがん治療をされる患者さんの通訳をした時に、しみじみと語っておられました。私も通訳者として、医療現場で大切なこの「安心」をお届けするお手伝いが少しでもできればと願っています。



今月のピックアップ



「4月といえば」



日本では4月と言えば新年度、学校も新学年や新学期を迎えます。ただ4月がスタートの国って珍しいんですね。世界の国々ではどんな4月を過ごしているのでしょうか。

キリスト教徒の国ではやはり「イースター」。これはキリストの復活を祝う「復活祭」の英語表現で、アルゼンチンでは「パスクア」、ブラジルでは「パスコア」と呼ぶそうです。実は日にちが4月と決まっている訳ではなく、「春分の日の後の最初の満月の次の日曜日」なので年によっては5月初めもあるようです。この時期は学校がお休みになったり、イースターエッグのチョコレートをとても楽しみにしていた、という思い出も...。この間は「聖週間(スペイン語ではセマナサンタ)」と呼ばれて、キリストのはりつけの姿や血の涙を流すマリア像をたくさん見せられて痛々しかったという声もありました。

一方**中国**は、4月といえば「清明節」。春分から15日目なので4月5日頃ですが、これは日本のお盆にあたる先祖にお参りする日です。お墓の掃除をしたりお線香をあげたり、またちょうど気候も良くなる頃なので家族で郊外へピクニックに出かけたりして過ごします。

ベトナムでは4月30日が「南部解放の日」または「統一の日」で第二次大戦以降、長年にわたって分断されていた国が1975年に統一された大切な記念日です。記念式典やイベントがあり、翌日5月1日がメーデーで祝日なので、毎年連休になる楽しみな日とのことです。



春のエピソード(桜)

日本では「春」と言えば「桜」ですね。皆さんのお近くでも美しい桜を楽しめましたか? カナダは街路樹や公園内に桜の木が多いです。バンクーバー近郊にあるブリッティッシュコロンビア大学(UBC)構内には新渡戸稲造記念庭園があり、ここの桜は見事だそうです。カナダでは冬が長いので、花の咲く春の到来が一層待ち遠しいでしょうね。

また、4月が秋のブラジルでは「パイネイラ」という桜に似た色の花が、ちょうど4月に咲くそうです。日系人の皆さんは、その花を見て、遠い日本の桜を連想されるようですよ。世界のあちこちで桜を見上げている人が今日もいらっしゃるかもしれませんね。

